

## 編集後記

これまで Assistant editor として編集のお手伝いをさせていただいておりましたが、この度須田憲治新編集長の下で編集委員を拝命することとなり大変身に余る光栄と存じますとともに、本誌が紡いできた輝かしい歴史に大きな責任を感じ身の引き締まる思いです。新旧編集委員の引継ぎにおいては白石公前編集委員長および編集委員の諸先生方のこれまでの功績と次世代に託す想いを共感いたしました。さて、委員会で最も懸念されていることは英文誌への論文投稿がまだまだ少ないことです。英文誌は本学会から世界へ発信できる大切な「港」の役割を果たしております。Original articles, Case reports などはもちろん大歓迎ですが、皆さんが過去に本誌でご発表された貴重な日本語論文を是非 Secondary publication としてこの Journal を通じて世界に発信していただければと思います。日本の医学雑誌は現在約 170 誌が英文誌として Pubmed に掲載されております。Pubmed の選定基準はコンテンツの質は当然のことながら編集の質も重要視され、Peer review システムの質は担保していかなければなりません。つまり Pubmed 掲載への近道はないともいえるのですが、英文誌が世界から信用される「港」として広く認識されるよう、会員の皆様の一層のご協力をいただきながら発展させたいと願っております。

(武田充人)